

日本海ケーブルネットワーク株式会社

2006 年 春 期 放 送 番 組 審 議 会 議 事 録

開催日時：2006年3月18日（土）11：30から14：00

開催場所：鳥取県鳥取市富安 日本海ケーブルネットワーク株式会社 6階会議室

在任審議委員数：9名

出席審議委員氏名 山内 益夫 (会長)
 江本 克也
 松下栄一郎
 山中 英雄
 天野 典子
 田中 仁成 (順不同 敬称略)

NCN からの出席者

 徳田 真吾 (取締役局長)
 勝原 公一 (参与)
 長田 弘彦 (編成制作部チーフプロデューサー)
 西尾 広海 (営業部チーフマネージャー)
 上原 啓介 (総務部)

議案：

- 1) 自主制作番組について
(下記の番組について審議会中、VTRで放映した。)
「Cue Up9」
「三朝ウィーク」
「じげの逸品」

審議の概要

(以下○印 審議委員からの意見、●印 NCNからの出席者の回答)

NCNより当該年度の自主制作番組の説明、事業の説明が行われた後、山内益夫会長の進行で自主制作番組について審議が行われた。

「Cue Up9」について

○番組の反応や視聴率はどのようにして把握をしているのか？

●現在一般的な視聴率調査はしていないが、アンケート等で把握するように努めている。また、リピート放送で視聴機会を増やすよう編成している。

○「知っ得伝言板」で使用されているフィリップの文字など、店舗で使われているPOP広告のようにもっとアピールする書体にするなど工夫してほしい。

○市民団体などのイベント告知の申込数や放送の可否の判断基準は？

●伝え方についてはご意見を参考に工夫していきたい。

●告知依頼や情報提供は年々増えている。放送基準としては公的なイベントや無料催事は「知っ得伝言板」などでお伝えし、営利目的のものは原則としてCMとして扱うようにしている。

「地域住民の参加」について

○学校の中に「ビデオクラブ」をつくって、生徒の作成した地域の映像をCATVで放映するのはどうだろうか。最近はパソコンでも映像の編集は可能だ。

○お店の紹介などは、CATVのスタッフが紹介するよりも地元の人が出演して紹介する方がより身近に感じられると思う。もっと地元から発信する取り組みを希望する。

○各地域に取材委託をしてはどうだろうか。CATVのスタッフのみでは人員的に限りがあるので、地域連絡員などの集めた地域情報を集約するのも面白いと思う。

○地域の子供たちが地域に誇りが持てるよう、元気なメッセージをCATVは発信してほしい。

●ご指摘いただいたアイデアを参考に、地域の方がもっと多く出演し情報発信できるよう地域の方に開放されたテレビを目指していきたい。

●デジタル化に伴って自主制作番組の多チャンネル化も可能になる。市民参加の番組づくりや仕掛けを考えていきたい。

報道番組について

○新聞では一般に社説などで新聞社の意見を掲載し、社として問題提起を行っているが、CATVでは市民が関心ある事項にたいして問題提起は行わないのか。鳥取県物産館の移転問題や市街地変電所建設問題など視聴者には関心の高いテーマと思う。また意見が対立している問題について当事者をスタジオに招いて討論会を行うなど工夫してほしい。

●「ビデオジャーナリストが行く」というコーナーで報道問題を取り上げているが、まだ力量不足と認識している。メディアとしてジャーナリズムの役割は最低限担っていくべきと考えている。

●鳥取県東部、中部には多くの優秀な人材がそろっている。討論番組ができるようなスタッフの育成に努めていく。放送を通じて地域を活性化できようように努力していく。

以上をもって本会議は審議すべてを終了したので 14 : 00 閉会した。

上記の議事の経過、要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。

(記述責任者：総務部 上原)